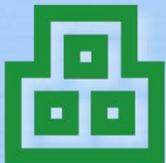


株式会社SHIFT

 ヒンシツ大学

(人財育成・研修サービス)

<ご説明資料>



ヒンシツ大学とは

ソフトウェアの品質保証・テストの専門企業
株式会社SHIFTが培ったナレッジを
言語化し体系化した**教育専門機関**です。

日本最大数の
テスト講座

1,000社/年の
品質保証の
ノウハウ

大手ラーニング
会社や専門学校
へ導入

ヒンシツ大学の特徴

人材 能力開発 育成状況管理

業務システム・ゲーム・アプリ等、**ソフトウェア開発の伴う
開発業務の課題解決**を**人材の能力開発**によるアプローチからご支援。

スキル診断を併用することで、継続的な自社の**人材育成状況管理
(タレントマネージメント)**の**効率化**に貢献。

第三者ソフトウェア品質保証専門会社の培った
ナレッジの詰まった**専門性の高い学習教材**にて

各開発工程でのプロジェクト運営と体系的な品質保証設計の
観点や方法論を習得でき**全社的なスキルの底上げ**に貢献。

専門性の高い 学習教材

研修プランの カスタマイズ

企業研修として自社課題への対応を優先した
研修プランのカスタマイズに対応。

一般的な公開講座とは違い、必要な知識を集中的に学習すること
で、**早期に実践で活用可能な知識の習熟**が期待できます。

ヒンシツ大学の特徴

人材 能力開発 育成状況管理

業務システム・ゲーム・アプリ等、ソフトウェア開発の伴う
開発業務の課題解決を人材の能力開発によるアプローチからご支援。

スキル診断を併用することで、継続的な自社の人材育成状況管理
(タレントマネージメント) の効率化に貢献。

Why

- お客様の優先する戦略的な育成計画を企画段階から支援
- 業務毎に必要なスキルをビジネス変化に応じた早期習得
- スキル診断にて個人別の傾向を管理者目線で明確化

持続的育成計画支援

業務必要スキルをスピード習得
個人別の人材育成状況管理に対応

How

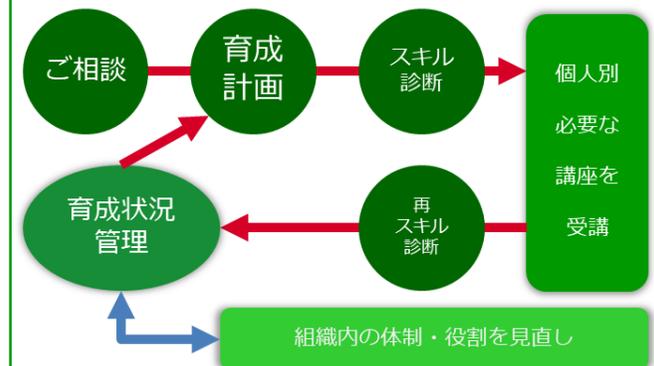
全社ミッションを戦略的ピンポイント強化

業務毎／個別に補完的早期習得

実践力強化の複合的な仕組みを構築

- ✓ 無駄なくピンポイントにスキル強化
- ✓ 組織ミッションの変化へ柔軟に対応
- ✓ 座学/演習/OJT支援など複合的な仕組みを用いて一貫した育成状況管理を実現

持続的な能力開発サイクル



ヒンシツ大学の特徴

第三者ソフトウェア品質保証専門会社の培ったナレッジの詰まった**専門性の高い学習教材**にて

各開発工程での**プロジェクト運営**と**体系的な品質保証設計**の観点や方法論を習得でき**全社的なスキルの底上げ**に貢献。

専門性の高い
学習教材

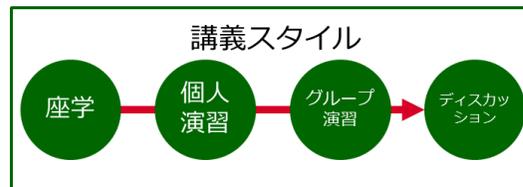
Why

- 工程毎の観点や方法論が習得可能な日本最大数のテスト講座
- 1,000社/年の現場による体系的な品質保証のノウハウを反映
- 座学だけではない**経験を重視**した体験型講座で効率的な学習

日本最大の講座数
現場のノウハウを教材に反映
体験型講座による**効率的な学習**

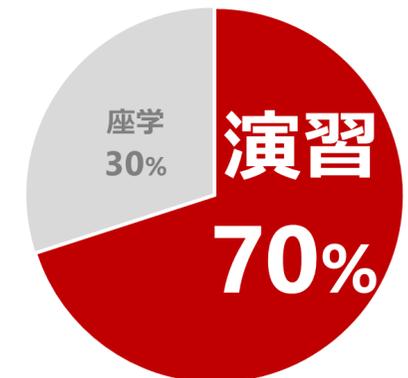
How

実践的・体験型講座



※一部講義により違う場合があります。

- ✓ 全ての方が対象（新人、エンジニア、PL/PM、管理層）
- ✓ 日本を代表する信頼されるラーニング会社に導入
- ✓ PMI公認トレーニングパートナー



ヒンシツ大学の特徴

研修プランの カスタマイズ

企業研修として自社課題への対応を優先した
研修プランのカスタマイズに対応。

一般的な公開講座とは違い、**必要な知識を集中的に学習**すること
で、**早期に実践で活用可能な知識の習熟**が期待できます。

Why

- ご要望に応じて個別カスタマイズや出張企業研修にも対応
- 実用性が高く実務をベースとした講座で必要知識を集中学習
- 大手ラーニング会社や専門学校も導入する実践的な演習

個別の企業研修

必要としている知識を集中学習
実践力が身につく**演習が中心**

How



【信頼】日本を代表するラーニング会社に導入

Edifist
エディフィストラニング株式会社

FUJITSU
株式会社富士通ラーニングメディア

I teach on
Udemy

NTT DATA
株式会社 NTTデータユニバーシティ

ヒンシツ大学

TRAINOCATE

HITACHI
Inspire the Next
株式会社日立アカデミー

i-Learning

KASAREAL

中央省庁・事業会社

(内製化等の目的にて) 計画的な全社教育のために、
自社で必要とするスキルをピンポイントで強化したい

業務に必要な技術を
早期に習得させたい

品質保証チーム

(品質保証活動を)
実践運用できるように
なってもらいたい

実践で必要となる
スキルの有無を把握

机上で学習済の知識を
実践で活かすための応用力

実践力

事業会社IT部・子会社

先進的な開発手法に取り組む開発チームの
適切な開発ライフサイクル運用の習熟と
事例に基づく実践的な改善活動の定着

(内製化等の目的にて) 計画的な全社教育のために、
自社で必要とするスキルをピンポイントで強化したい

システム開発ベンダー

業務に必要な技術を
早期に習得させたい

まとめ

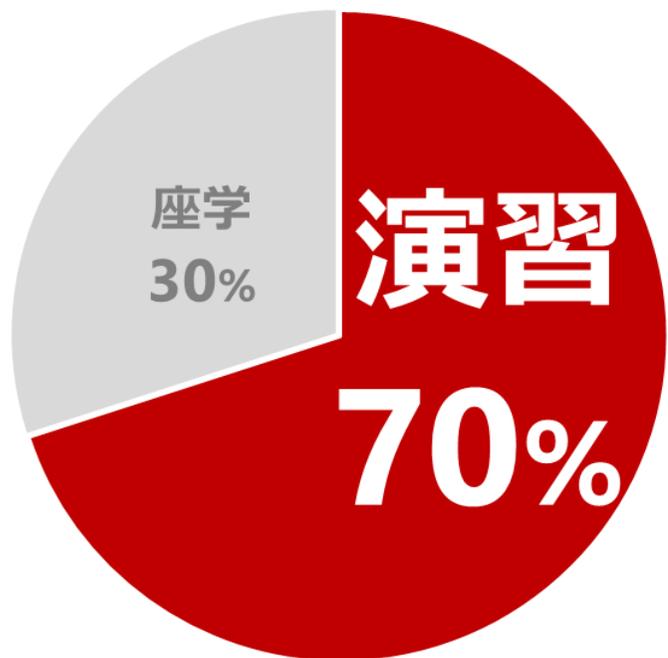
- ・ 全社的に**戦略的**ピンポイント強化
- ・ 業務毎／個別に**補完的**早期習得
- ・ 実践力強化の**複合的**な仕組みを構築



1. 公開講座

1. 公開講座
2. 1社向け企業研修
3. 検定
4. 学校・自治体へ授業提供
5. ヒン大ニュース
6. 講座紹介

演習中心の講座内容

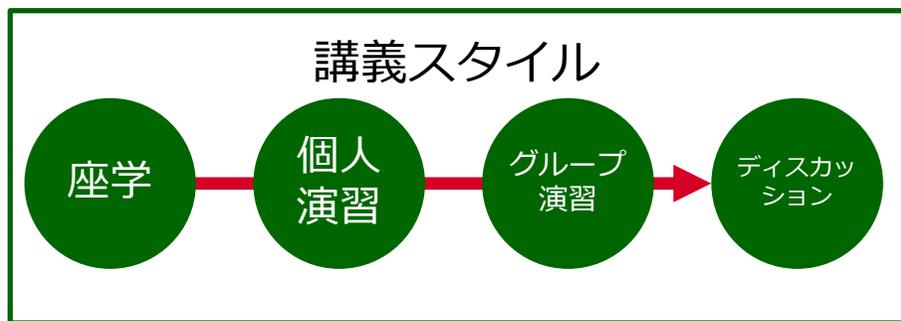


実際の事例をとりあげて学ぶ**ケーススタディ**と、
それをもとにした**ディスカッション**、
および**演習**（個人/グループワーク）中心の構成です。

■ SHIFT独自のテスト標準観点

A screenshot of a table titled 'SHIFT独自のテスト標準観点'. The table has columns for '項目', '観点', '評価', and '備考'. A callout box points to a specific cell in the '備考' column, containing the text 'ノウハウをお伝えします。'.

項目	観点	評価	備考
...	ノウハウをお伝えします。



※一部講義により違う場合があります。

実践的・体験型学習が特徴

人材育成ソリューション - 近年の人材育成課題の背景と解決策

お客様のお悩み

ヒンシツ大学の 人材育成ソリューション

中央省庁・自治体・事業会社

- ・人材の育成計画に応じて、必要とする知識や経験値をピンポイントで強化したい
- ・業務に必要な技術を早期に習得させ、業務体制変更時の突発的な業務負荷を抑制したい

事業会社IT部・IT関連子会社

- ・先進的な開発手法に取組む開発チームが、適切な実施判断を選択して業務を遂行できるようにしたい
- ・事例に基づく実践的かつ合理的な改善活動を通常時の業務運用として定着させたい
- ・内製化等の中長期的な計画に向けて、自社で必要とするスキルやノウハウを段階的に習熟したい

品質保証チームまたは組織

- ・（品質保証活動を）実践運用できるようになってもらいたい
- ・机上で学習済の知識を実践で活かすための応用力
- ・実践で必要となるスキルの有無を把握

システム開発ベンダー

- ・業務に必要な技術を早期に習得させたい
- ・品質保証活動を自立的に運用できる力をつけさせたい
- ・実践で必要となるスキルの有無を把握したい

●人材育成のミッションを戦略的ピンポイント強化

- ・現場で**共通的に必要となるスキル**を効率的に習得させたい
⇒ 実践的対応力の向上、**マインドの向上**
- ・目標や計画に対しての人材育成の進捗状況を把握したい
⇒ 適性判断、施策の見直し等

●業務毎／個別に補完的早期習得

- ・業務に**必要な技術を早期に習得**させたい
⇒ 業務参画後の機動力を後押し、**迅速な業務支援体制の構築**
- ・開発チーム単位で必要な実践的な品質保証活動を早期に理解させたい
⇒ 業務参画時やプロジェクト発足時の作業品質や成果物品質の意識合わせ

●実践力強化のための複合的な仕組みを構築

- ・先進的な開発手法への対応力をつけさせたい
⇒ DX推進、ローコード開発、アジャイル等の迅速な要点把握
- ・**品質保証活動を自立的に運用**できる力をつけさせたい
⇒ **プロジェクト単位や開発チーム単位の品質強化**、事例の活用
- ・実践で必要となるスキルの有無を把握したい
⇒ 業務参画後の課題発掘、迅速な役割/体制変更等予防策

講座一覧①

クラス	講座	講座内容	受講料	オンライン
ベーシック	① ソフトウェアテスト、基本の「き」	ゲーム感覚で楽しんで学ぶ品質・テストの基礎	46,200円	○
	② ソフトウェアテスト入門	「テストに関する知識」「品質に関する知識」を習得	46,200円	○
	③ テスト自動化入門	テストオートメーションの基礎	46,200円	—
	④ 非機能テスト入門	注目度急上昇のテスト領域	46,200円	○
エンジニアリング	⑤ テスト設計（機能テスト）	効率的に漏れのないテスト設計手法を習得	46,200円	○
	⑥ テスト設計（シナリオテスト）	業務フロー等を基に網羅的なテスト設計を習得	46,200円	○
	⑦ テスト演習（機能テスト）	仮想プロジェクトで腕試し！スキルレポート付	46,200円	○
	⑧ 仕様書インスペクション	上流品質を高め手戻りを防ぐドキュメントレビュー技法	46,200円	○
	⑨ テスト自動化実践	「Selenide」を用いた実践的なWebテストのハンズオン	46,200円	—
	⑩ DevOpsテスト入門	継続的デリバリーを実現するテストのアプローチ	46,200円	○
	⑪ コンポーネントテスト【Java編】 ★NEW	JUnitを利用した自動テスト	46,200円	—
マネジメント	⑫ テスト計画	成功する為のテスト計画・見積り極意	46,200円	○
	⑬ テスト管理	テスト実行時の管理方法・変更多発のテスト管理にお悩みの方必見	46,200円	○
	⑭ 不具合分析	障害報告や不具合データの分析と対策、今後の改善に活かす方法	46,200円	○
	⑮ テストプロセス改善	評価・改善案策定を一日で習得！「TPI NEXT」を習得	55,000円	○
	⑯ テスト戦略	テスト計画に繋がる具体的な戦略立案の肝	55,000円	○

講座一覧②

クラス	講座	講座内容	受講料	オンライン
ベーシック	⑰ VBA 入門編	VBAの基礎、VBA演習プログラム経験ゼロの方から丁寧におしえます。	46,200円	—
	⑱ VBAによるOffice連携RPAプログラミング	VBAによるOffice連携を学びます。 (OutlookVBAの基礎、WordVBAの基礎、AccessVBAの基礎等作成中の要点など)	49,500円	—
	⑲ VBAによるWeb操作RPAプログラミング	VBAによるWeb操作を学びます。(HTMLの基礎、Javascript概要作成中の要点など)	49,500円	—
エンジニアリング	⑳ 性能テスト入門	負荷テストツールApache JMeterを利用した演習を行います。	46,200円	—
	㉑ TDDテスト駆動開発	テスト駆動開発(TDD)の体験とともに、よりよいテストの書き方、よりよいリファクタリングの進め方をお伝えします。	46,200円	—
	㉒ 作るUX・測るUX実践講座	測るUXに加え、作るUXの基本をワークショップで学べるセミナーです。UXのプロから利用者視点活用の実践的な基礎を伝授します。	46,200円	○
	㉓ セキュリティテスト入門	情報セキュリティの運用、評価、テストに関する基礎知識を学びます。	46,200円	—
	㉔ RPA基礎応用 (BizRobo)	RPAの代表的な環境であるBizRobotを使ってRPAの基礎を学びます。	46,200円	—
	㉕ RPA基礎応用 (UiPath!)	RPAの代表的な環境であるUiPathを使ってRPAの基礎を学びます。	46,200円	—
	㉖ 設計品質ワークショップ【基本設計編】★NEW	基本設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。	46,200円	○
㉗ 設計品質ワークショップ【詳細設計編】★NEW	詳細設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。	46,200円	○	
マネジメント	㉘ できる技術者の提案テクニック	コンサルタントが使う課題解決の手法である「ロジカルシンキング」を応用した提案テクニックを学びます。	46,200円	○
	㉙ 理想のCXを実現する	CX手法の進め方、及び注意点を説明していくとともに、各種演習を通して知識と理解を深めます。	55,000円	○
	㉚ アジャイルスクラム入門	アジャイル、スクラム開発の基礎を講義、事例、グループワークを織り交ぜながら習得し、疑似開発プロジェクトでスクラムを実践します。	46,200円	○
	㉛ ソフトウェアテストのプロジェクト・マネジメント(2日間) 12PDU取得可能	ソフトウェアテスト業務のプロジェクト・マネジメントをPMBOKのフレーム (知識エリア/プロセス群)に沿って解説します。さらに、各種の演習を揃えており、実践力に磨きをかけることができる講座となっています。	92,600円	○
	㉜ テスト計画・管理【実技編】	テスト工程について、より効率的な計画を立て、より正確に管理するための実技を身につける講座です。	46,200円	○
	㉝ 上流工程からの品質作りこみ	プロジェクト遅延原因の大半を占める要件定義工程の品質向上策の講座です。	46,200円	○
	㉞ 金融システムに求められる安全対策基準 ★NEW	当局が金融機関に求めるFISC安全対策基準の内容を学びます。	69,300円	○

お客様の声（1 / 3）



20代 女性

ソフトウェアテスト入門講座を受講

テストに対する考え方を学べたのが良かったです。
エンジニアとしての目線でバグを見つけるだけという役割ではなく、
開発する**ソフトウェアに関わる様々な立場になって品質を考える**ことが
大事だと知ることができたので良かったです。



40代 男性

テスト計画講座を受講

ご経験をお聞かせいただけただけことがよかったです。
テスト計画書作成において**テスト実施を見送った対象 = リスク**となることは
私の観点から抜けていたので実務で対応したいと思います。
ありがとうございました。



30代 女性

仕様書インスペクション講座を受講

テスト仕様書の作成や打鍵、レビューの経験はありましたが、静的テスト・
動的テストなど、そういう概念自体を全く知らなかったため、大変勉強になり
ました。**インスペクションのみならず他のレビュー・テスト方法について
も勉強し、現場の品質向上に役立てたい**と考えるようになりました。

お客様の声（2 / 3）



30代 男性
テスト設計（機能テスト）講座を受講

何が大事なのかを要点をまとめて結論から話して頂いたのでとても理解しやすかったです。テストをする上で**テストする目的を理解しているかが重要**という所に気づけたのはとても良かったです。



30代 女性
テスト設計（機能テスト）講座を受講

現場での経験を活かした**具体的なエピソードが非常に多く**、話が入ってきてためになった。受講者の反応を見ながら、様子を見ながら講義を進めていただいたのでライブ感が高い。

事業会社様からは

- ・ベンダー任せで属人化になっているテスト、品質の安定化のため基礎から学べた
- ・何となく行ってきた受け入れを**体系立てて設計、実行ができるようになった**
- ・受け入れ工程だけでなく、依頼時（上流工程）での重要性に気づけた

開発ベンダー様、SIer様からは

- ・テスト設計を学ぶ事で、**抜け漏れなく開発設計ができる観点を持てる**ようになった
- ・正しくインスペクション（レビュー）ができるようになった
- ・上流工程で計画し、テスト見積もりができるようになり品質を作り込むことができた

共通して

- ・品質を高めるためのテストについて**座学、演習を通して体系的に学ぶ**ことができた
- ・代々受け継がれてきたテスト設計書の良い点や改善点が把握できるようになった

ヒンシツ大学が選ばれるには理由があります！

1

日本最大の講座数

テスト工程の基礎知識から技法、
そして、上流工程での品質の作りこみを学べる

事業会社、開発ベンダー、
SIerに関わらず
品質に関する教育体系を
作ることができます

2

現場のノウハウ

1,000社/年で培ったノウハウを講義に採用
講師も現場を経験したスペシャリスト、特にテスト設計は必見！

開発の設計者も必見
抜け漏れの少ない
テスト設計 = 開発設計です

3

演習中心で実践型

演習を行うことで、インプットした情報を
効率よくアウトプット！理解を深める学習スタイル

誰もが触れたことのある
身近な仮想プロジェクトで、
理解を深めることができます

【信頼】 日本を代表するラーニング会社に導入

 **Edifist**
エディフィストラーニング株式会社


株式会社 富士通ラーニングメディア

I teach on
Udemy


株式会社 NTTデータユニバーシティ

 **ヒンシツ大学**

 **TRAINOCATE**

HITACHI
Inspire the Next
 株式会社 日立アカデミー



 **CASAREAL**

2. 1 社向け企業研修

1. 公開講座
2. 1 社向け企業研修
3. 検定
4. 学校・自治体へ授業提供
5. ヒン大ニュース
6. 講座紹介

ご要望に応じてカスタマイズ可能

【概要】

- ・ 8名～24名までの一社様向け企業研修
- ・ お客様先、弊社セミナールームどちらでも可能
- ・ 個人・グループ演習中心の実践講座

テスト技法、品質の考え方が
個人やベンダー依存

属人化の排除、標準化

開発重視で品質意識低い

**品質意識向上、
ナレッジの共通言語化**

テスト成果物に対して、
指摘ができない

**最低限必要な
知識・スキルを身に付ける**

公開講座と企業研修の違い

	公開講座	企業研修（一社様向け）
内容	HPに日程を公開し、弊社セミナールームにて、週3回程度開催	お客様のご要望に沿った場所・形式で開催
開催人数	5～24名	8～24名
講座時間	6時間	7時間
小テスト	なし	あり
終了報告	なし	あり
講座カスタマイズ	なし	あり
フォローアップ ※1	なし	あり
価格（税抜）	42,000円 ※2	人数×単価（企業研修用） ボリュームディスカウントあり ※詳細はご相談ください

※1 講座終了から約1カ月後に3時間の振り返り

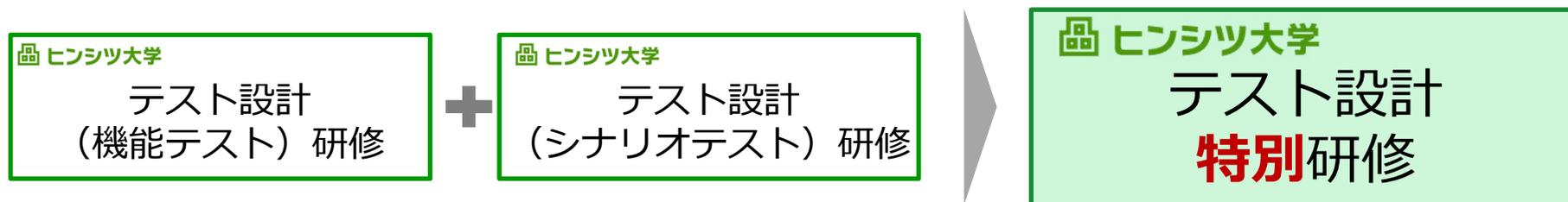
※2 一部50,000円

1社ごとに様々なカスタマイズが可能

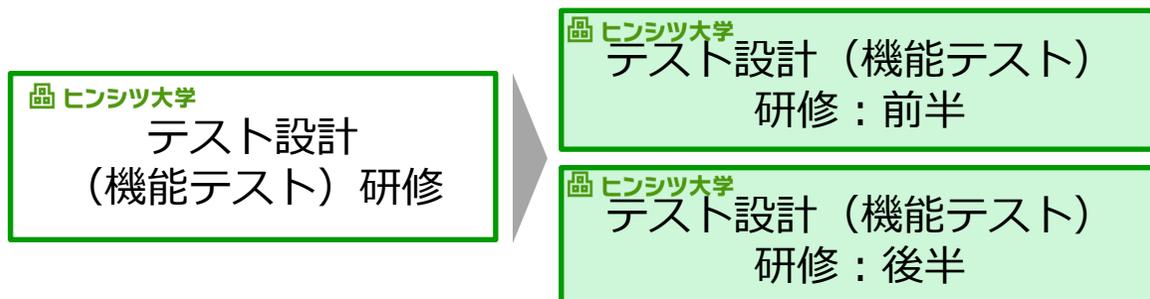
■カスタマイズパターン例① | 演習で使用する仕様書などを自社のフォーマットで行いたい



■カスタマイズパターン例② | 1日の研修で、いろいろなことを伝えたい



■カスタマイズパターン例③ | 1日は時間をとれない、分割して研修を行いたい



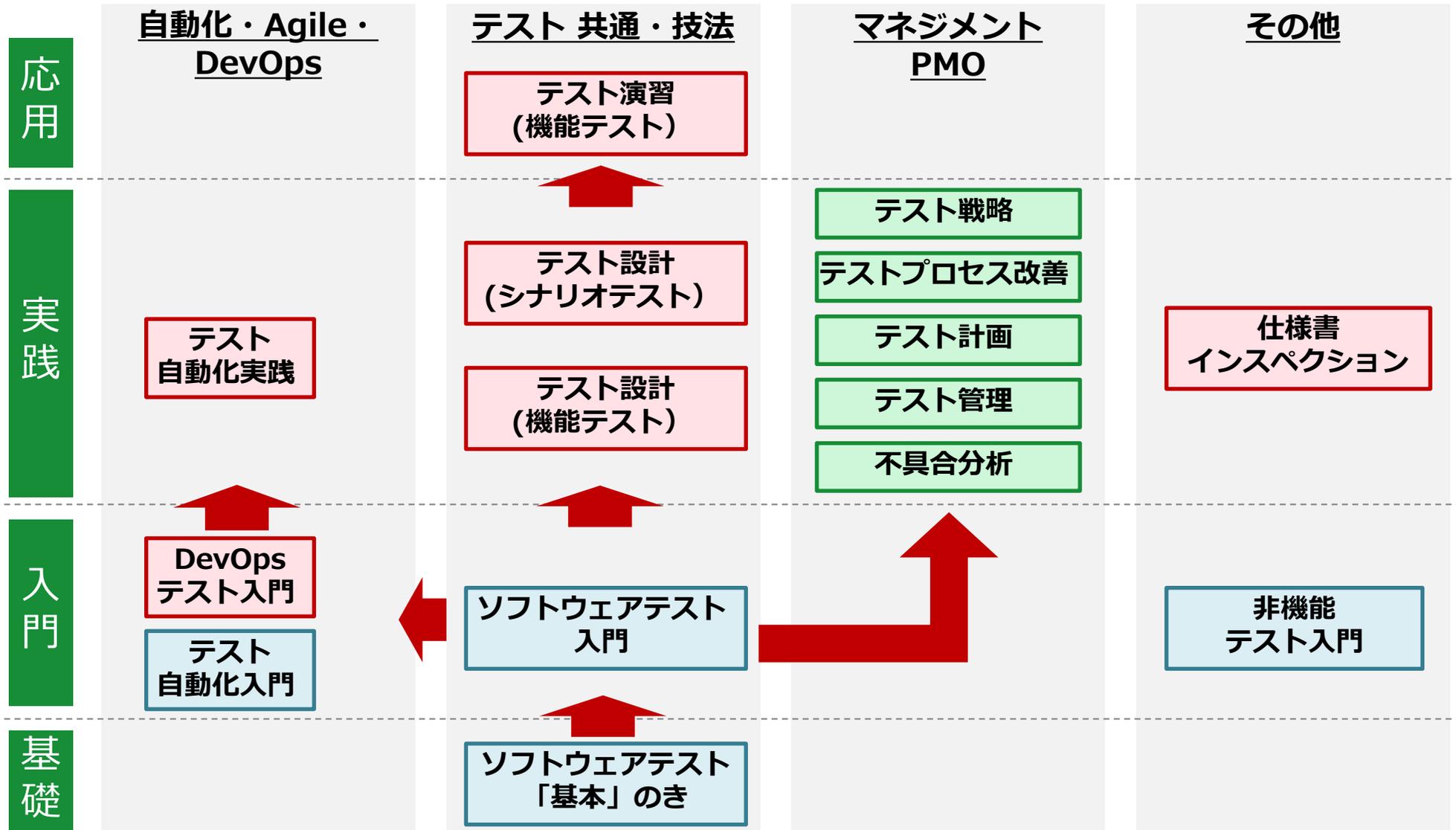
時間割例

	1日目	2日目	3日目
AM	X	後半	後半
PM	前半	前半	X

企業研修フロー



ランク・種類別 講座カテゴリ



品質マネジメントの強化ポイント



ヒンシツ大学講座マップ

		ベーシック		エンジニアリング		マネジメント	
作業 レベル	テスト実行	テスト設計	業務設計	管理者	アーキテクト		
上級			テストプロセス改善				
			金融システムに求められる安全対策基準				
			上流工程からの品質作り込み				
			理想のCXを実現する	ソフトウェアテストのプロジェクト・マネジメント			
中級	TDDテスト駆動開発				テスト戦略		
	テスト自動化実践				アジャイルスクラム入門		
			DevOpsテスト入門				
			設計品質ワークショップ				
			仕様書インスペクション			セキュリティテスト入門	
初級			テスト設計 (シナリオテスト)		性能テスト入門		
			テスト演習 (機能テスト)	作るUX・測るUX		テスト計画	
	コンポーネント テスト【Java編】	テスト設計 (機能テスト)			テスト管理		
					不具合分析		
エントリ	できる技術者の提案テクニック						
	テスト自動化入門						
	非機能テスト入門						
	VBA 入門編/VBA Office連携/VBA Web操作						
	ソフトウェアテスト入門 (品質概論)						
	ソフトウェアテスト、基本の「き」						

企業研修もオンラインでご提供可能に！

<概要>

- ✓ 公開講座のオンライン版をご提供
- ✓ ライブ講座でインタラクティブ性を確保
- ✓ 個人・グループ演習中心の実践講座

オンラインライブ講座

クラス	講座	受講料（税別）
ベーシック	ソフトウェアテスト基本	42,000円
	ソフトウェアテスト入門	42,000円
	テスト自動化入門	42,000円
	非機能テスト入門	42,000円
エンジニアリング	テスト設計（機能テスト）	42,000円
	テスト設計（シナリオ）	42,000円
	テスト演習（機能テスト）	-
	仕様書インスペクション	42,000円
	テスト自動化実践	-
	DevOpsテスト入門	42,000円
マネジメント	テスト計画	42,000円
	テスト管理	42,000円
	不具合分析	42,000円
	テストプロセス改善	50,000円
	テスト戦略	50,000円

オンライン企業研修

- 8名～30名まで受講可能
- Zoomを利用して実施



※他のツールもご相談ください

3. 検定

1. 公開講座
2. 1社向け企業研修
3. 検定
4. 学校・自治体へ授業提供
5. ヒン大ニュース
6. 講座紹介

素養／スキル テスト一覧

No	検定試験	種別	時間	合格率	主な指標
1	テスト技術者検定－実行素養編	素養	60	6	正確性、スピード、タイピング、伝達能力、テスト適正
2	テスト技術者検定－設計素養編	素養	60	20	仕様把握力、パターン構築力、組合せ数算出力、整理力、条件検出力、機能分解力
3	PM検定－素養編	素養	60	20	コミュニケーション素養、タスク設定・管理素養、リスク管理素養
4	データエンジニア素養検定	素養	60	20	Excel、データ分析力、コミュニケーション
5	Excelスキル検定【初級】	スキル	30	40	
6	Excelスキル検定【中級】	スキル	30	20	操作力、作表力、数式計算力、ピボット計算力、グラフ表現力
7	Excelスキル検定【上級】	スキル	30	20	自動化力、データ分析力
8	プレゼンテーションスキル検定【中級】	スキル	30	40	要約力、表現方法選択力、操作能力、完成力、発表力
9	プレゼンテーションスキル検定【上級】	スキル	30	20	ストーリーカ、レビューカ
10	営業スキル診断	スキル	30	70	ストーリーカ、ブーストカ、リサーチカ、マネジメントカ、姿勢、コミュニケーション(反応)、知識、計算力
11	品質基礎スキル診断 (日本語版/英語版)	スキル	60	40	品質基礎、テスト設計、インスペクション、不具合分析、テスト計画、非機能テスト
12	P M検定－知識編	知識	40	70	PMBOKのフレームに沿って、ソフトウェアテストを推進するPMに必要な知識を問う
13	P M検定－実践スキル編【初級】	スキル	40	70	ソフトウェアテストの進捗状況に応じた基本的な対応力を問う
14	P M検定－実践スキル編【中級】	スキル	90	30	ソフトウェアテストの進捗状況に応じた対応力、ステークホルダーとの調整力を問う
15	SAP/アジャイル/ロジカルシンキング	スキル	－	－	(制作中 2022年リリース)

4. 学校・自治体へ授業提供

1. 公開講座
2. 1社向け企業研修
3. 検定
4. 学校・自治体へ授業提供
5. ヒン大ニュース
6. 講座紹介

【国・学校・自治体連携】

将来を担う学生に品質保証の大切さを伝える活動

専門学校 授業	千葉県NO.1のIT専門学校 船橋情報ビジネス専門学校	(2018年9月~)	必須授業
	日本最大級のIT専門学校 日本工学院	(2018年11月)	特別授業
	日本有数のIT専門学校 日本電子専門学校	(2019年4月~)	必須授業
	高知県NO.1のIT専門学校 高知情報ビジネス&フード専門学校	(2020年5月~)	必須授業
小中学生向け 特別授業	SHIFT社員のこどもたちによる職場体験 シフトモkidsサマースクール	(2021年8月)	特別講座
高校生向け 特別授業	都内屈指の名門校 広尾学園	(2019年3月)	特別講座
	高知の名門 SGH(スーパーグローバルハイスクール) 高知西高校	(2020年1月)	特別講座
大学生向け 特別授業	私立理工系大学唯一のスーパーグローバル化 芝浦工業大学	(2019年8月)	特別講座

【国・学校・自治体連携】 将来を担う学生に品質保証の大切さを伝える活動

自治体向け 特別授業

高知県経済活性化を担うデジタル人材育成
土佐MBA

(2021年7月) 特別講座

沖縄市の課題xSAP人材不足を共に解消
SAP女子プロジェクト

(2021年10月) 特別講座

国・省庁向け 特別授業

文科省 委託事業 4年目

「専修学校における先端技術利活用実証研究」

(2021年度) 実施委員／推進委員

【導入事例1】A社 情報子会社（東証一部上場：陸運子会社）

■ケース1

お困りごと	リリース後の不具合多数。 →上流工程での品質意識改善の実施し、プロダクト品質向上
解決目的	インスペクション講座を実施、仕様書間整合性をみて、前工程でバグを検知する
教育対象	中堅社員 20名
講座内容	インスペクション講座
効果	上流工程のレビュー指摘 従来比 25%上昇、一方リリース後不具合が50%削減した。 リリース後不具合対応が半減した分、全体対応コスト削減に寄与した。

■ケース2

お困りごと	要員スキルアンマッチ解消
解決目的	CAT検定により、品質力測定の実施し、QAチーム配属とプロジェクトリーダー抜擢
教育対象	中堅、若手社員 300名
講座内容	CAT検定（テスト実行検定、PM検定）
効果	テスト・品質の特性を見極めができ、品質チームへ適材適所の配属が可能となった。 テスト実行検定結果 4.0以上のメンバー15%を優先的にQAチームへの配属を行った。 PM検定者結果の偏差値60以上の上位者5%からプロジェクトリーダーへの抜擢を行った。

【導入事例2】B社 製版一体（東証一部上場：会計アプリ専業）

■ケース1

お困りごと	品質に関する知識が低い（体系立てて教育を受けていない） → SHIFT参画による品質改善活動で認識された不足スキルを向上させたい。 また、知識だけでなく演習を通じて実感させたい。
解決目的	品質に対する理解品質を高める方法の習得 ソフトウェアテストに関する知識の習得
教育対象	中堅、若手社員（毎年） 8年連続 東京拠点、地方拠点
講座内容	テスト計画とテスト設計（機能テスト）自社フォーマットの計画と設計演習 ソフトウェアテスト入門
効果	・毎年教育を行うことで共通言語が生まれ、全員の品質意識も向上し 上流工程で品質を考えることができ、上流段階での不具合発見率が20%上昇
教育担当者様のお声	毎回熱量が高く分かりやすい講義をして頂き、受講者の満足度が高く感謝しております。 弊社社員の品質に対する考えが、向上していると感じています。

■ケース2

お困りごと	社員の品質スキルが可視化できない
解決目的	社員毎に効果的な教育を実施したい
教育対象	中堅、若手社員 200名
講座内容	品質基礎スキルテスト
効果	現時点の社員のスキルを可視化できた。
教育担当者様のお声	マネージャ層が現場のやり方に固執していることが発見できた 翌期に向けた教育計画を立てることまでに至った

【導入事例3】 C社 大手SI（東証一部上場：電気製品製造）

■ケース1

お困りごと	大規模プロジェクトにおいて、体系的な品質教育が出来ていない
解決目的	そもそも現状のメンバーは、どういった品質スキルレベルなのかを知りたい 品質を高める方法の習得 ソフトウェアテストに関する知識の習得
教育対象	各本部のメンバー全体
講座内容	品質基礎力検定（1回目30名、2回目300名、3回目1300名、研修後再テスト） チケット購入（2500枚）による公開講座全般への受講
効果	<ul style="list-style-type: none">・ 検定によって個々の弱点とそれを補うための講座が明確になった。・ 部署ごと、レイヤーごと、といった品質スキルの偏りや弱点が明確になった。・ 個別に弱点部分に関して対応する講座を受講することで、品質面での適切な教育の実践が出きた。
教育担当者様のお声	<ul style="list-style-type: none">・ 検定の結果をFB頂きましたが、当社が認識している組織的な課題と同様の結果となっています。階層別と職種別の結果差異が社内の人事データと合致しているのでテストとしての信頼性を感じました。 個人データとしても品質に精通しているメンバーは高く結果がでており、メンバーとしてのモチベーションアップにもつながります。

【導入事例4】D社 大手SI（東証一部上場：商社系情報子会社）

■ケース1

お困りごと	PM力、特に対人力について折衝毎で
解決目的	横串組織のミッションとして事業部全体のPM力を可視化し向上したい MBOの一つに教育時間という項目もあり、実践に役立つ教育を実施したい 部下全員の達成率で評価がきまる
教育対象	各本部のメンバー全体
講座内容	品質基礎力検定（1回目30名、2回目389名） PM検定-知識診断、PM検定-実践スキル【初級】、PM検定-実践スキル【初級】（30名） チケット購入（100枚）による公開講座全般への受講
効果	<ul style="list-style-type: none">社員の実力が可視化できた今後、研修へつなげていく
教育担当者様のお声	<ul style="list-style-type: none">品質基礎力検定は、一般を問う問題なので、逆に非常に難しいと感じたPM検定-知識診断は、知識レベルなので1問の重みが非常に高い1回目PM上級職が受験した結果、設問自体は簡単なので5問間違えるとまずいレベル一方、PLや初級PMには、丁度よい教材にはなりえる

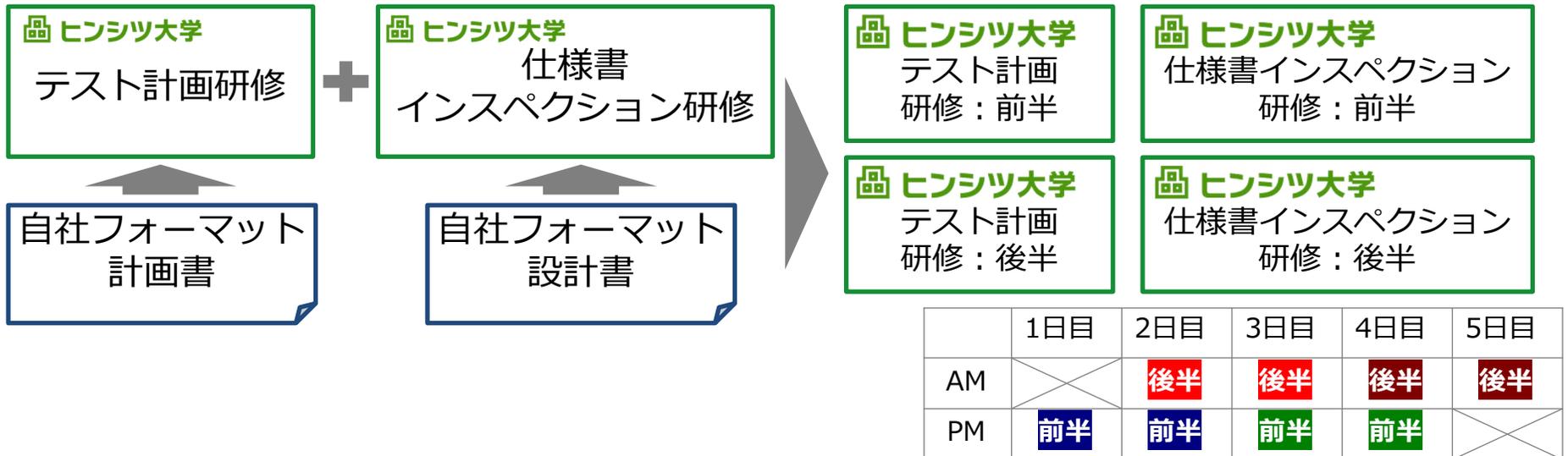
【導入事例5】E社 情報子会社（東証一部上場：情報通信業子会社）

お困りごと	プロジェクトにおける炎上（リリース後障害多発） 原因としてテストケース（テスト設計）が考えて作れていない 若手&新人は「品質」という言葉が理解できていない。
解決目的	意識改善、テスト技法の定着
教育対象	若手&新人（毎年） 3年連続 20名実施
講座内容	<1年目> ソフトウェアテスト入門 テスト設計（機能テスト） <2年目> 非機能テスト入門 テスト設計（シナリオテスト）
効果	<ul style="list-style-type: none">・「品質」とは何か、世の中にリリースするために、どれだけの品質を担保すべきか理解した。・「品質」を高めるために何をするか、低いとどうなるかをグループワークを通じて習得できた。・効果という面ではテスト自体はSHIFTに委託しているが、判断がつくようになった。・「品質」の高いテストにするためのテストケースの選定方法から学べて、テストに関する知識を具体化できた。・上流工程から意識した考え方を学ぶことができ、プロジェクトの進め方から意識を変えることができた。

【導入事例6】F社 事業会社（東証一部上場：情報通信会社）

お困りごと	SHIFTが参画したQAチームで策定した品質標準（標準プロセスや標準仕様書）を開発のマネージャー陣に広めていきたい
解決目的	基本の考え方を通じて理解する 演習やケーススタディを通じ、実際に利用する
教育対象	開発責任者、プロジェクトリーダー
講座内容	テスト計画、仕様書インスペクション
効果	<ul style="list-style-type: none"> 品質標準の重要性を理解 また演習を通じ、知識として理解し利用できる下地ができた。 標準フォーマットの定着が、計画より2か月前倒しできた。

■カスタマイズパターン② と カスタマイズパターン③ の組合せ



【導入事例7】 G社 事業会社（東証一部上場：生命保険）

お困りごと	要件定義の質が悪い 開発側と運用側双方で要件として何を考えるべきかを理解出来ていない 非機能品質の問題が発生しており、要件に原因がある
解決目的	要件定義では何を作成すべきか、どのように作成していくかを理解する 非機能要件、非機能品質に関する知識の習得
教育対象	開発（仕様設計） 運用・保守
講座内容	品質基礎力検定 非機能テスト入門 講座 上流工程からの品質作り込み 講座 テスト設計（シナリオテスト） 講座
効果	要件定義に非機能要件が明記されることが定着した。 設計に落とすことを前提に、要件に何を挙げるべきかを協力して検討出来るようになってきた

【導入事例 8】 H社 事業会社（東証一部上場：診療情報データ）

お困りごと	要件定義の質が悪い 開発部門と要求部門で要件定義についての認識や理想が異なる 非機能品質の問題が発生しており、要件に原因がある
解決目的	要件定義では何を作成すべきか、どのように作成していくかを理解する 非機能要件、非機能品質に関する知識の習得
教育対象	開発部門（12名） 要求部門（10名）
講座内容	ソフトウェアテスト入門 講座 非機能テスト入門 講座 上流工程からの品質作り込み 講座
効果	開発部門と要求部門とで協力して要件定義に臨むスタイルが定着した。 要件定義の段階で非機能品質を検討出来るようになった

5. ヒン大ニュース

1. 公開講座
2. 1社向け企業研修
3. オンライン
4. 専門学校へ授業提供

5. ヒン大ニュース
6. 講座紹介

新講座 2022年1月より提供

『金融システムに求められる安全対策基準

～元金融庁検査官が解説、注目度急上昇のクラウドのリスクについても解説～』

対象者：

- ・ 金融機関で、金融システムに関わる方
- ・ 金融システムの企画・開発を担当する方
- ・ 金融システムの運用に関わる方
- ・ システムのセキュリティについて学びたい方
【レベル感】・中級 ・上級

概要：

本講座では、当局が金融機関に求めるFISC安全対策基準の内容を学びます。リスクベースアプローチやクラウドデータセンターに求められている安全対策の基準を身につけます。

我が国の金融システムは、年々急速に変化をしています。特に、クラウドを含む外部委託の活用が急激に進展をしています。さらに、サイバー攻撃やマルウェア被害の増大等により、金融機関のシステムに対するリスク環境は、ますます厳しさを増していることから、セキュリティの強化に向けた取組みがより一層求められており、セキュリティ対策を怠ると倍返しどころか、10倍のフォローが必要になります。

金融当局がシステムに求める安全対策の基準とセキュリティ強化の具体的な対策を、講義とワークショップから身につけることができ、即業務でご活用出来る講座となっています。

■受講後の効果

- ・ 金融システムのセキュリティの現状を理解する
- ・ 金融庁が求めるセキュリティ安全対策基準の全体像を理解する
- ・ データセンターやクラウドにおいて、どのようなセキュリティ対策を実施すれば良いのかを理解する

概要	詳細
1. ITガバナンスとは	金融当局が金融機関に求めるITガバナンスとはどのようなものなのか
2. 関係者の役割について	情報システムの安全対策に携わる関係者の役割について
3. リスクベースアプローチとは	リスクベースアプローチとは
4. 安全対策基準について	安全対策基準～ルールと具体的な実務について
5. データセンター設備について	金融機関向けデータセンターに求められる設備について
6. クラウドの導入と運用について	クラウドの導入と運用について

新講座 2022年1月より提供

『コンポーネントテスト【Java編】』講座

前提知識：
Javaプログラミング（初級レベル）

対象者：
・コンポーネントテストの基本的な実装方法を学びたい方

概要：
このコースでは、コンポーネントテスト（単体テスト、APIテスト）を、JUnitを利用した自動テストで実装する方法を学び、演習により身に付けます。
合わせて、コンポーネントテストを容易に実装するための、「保守性」を向上するプログラム設計のポイントを確認します。

単体テストが思うようにできない、単体品質が上がらない、そんな悩みをお持ちの方はいませんか？ 単体テストにだって、体系だったスキルが必要です。プログラミング研修とは違ったテスト研修を必要としているのではありませんか？

近年JUnitなどの開発環境が整ってきて、コンポーネントテストを自動化することが非常に容易になってきました。また、アジャイル開発を行う場合には、コンポーネントテスト自動化のスキルは必須と言えるでしょう。
今こそ、コンポーネントテストの自動化に取り組むべき時です。新人からベテランまで、単体テストに不安を持つあらゆる方にオススメの講座です。

■ 受講後の効果

- ✓ JUnitを利用して単体テスト、APIテストを実装できる
- ✓ 試験性の向上を考えて、プログラム設計を補正できる
- ✓ モックを利用して、環境依存部分を排除したテストを実装できる
- ✓ 制御網羅を確認して、単体テストを作成できる

概要	詳細
コンポーネントテストとは	- コンポーネントテストの位置づけ - レビューとテストの補完関係 - コンポーネントテストの対象範囲
JUnitを使ったテスト	- JUnitとは - JUnitを使ってみよう - 演習：JUnitに慣れよう
JUnitの効率的な使い方	- テストの順序 - 循環参照の解消 - 入出力のテスト（演習含む）
モックを使ったテスト	- モックを使う理由 - 環境依存テストの考え方 - 演習：モックを使ったテスト
ホワイトボックステスト	- ホワイトボックスにおける網羅性 - ホワイトボックステストのポイント - 演習：網羅性を確認してユニットテストを作成

新講座 2022年2月より提供

『設計品質ワークショップ【基本設計編】』

前提知識：
基本設計（外部設計）の経験

対象者：
・基本設計の品質向上のポイントを探したい方
※この講座では講師が何かを教えるわけではありません。受講者が自らワークショップの中でディスカッションを重ね、自分に合ったヒントを見つけ出します。

概要：
このコースは、基本設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につなげるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。
基本設計は、システムへの要件をシステムの仕様に落とす作業です。基本設計の品質が悪いと、要件で提示されたことが抜け落ちる、作成されたシステムの品質が悪い、開発の見積（コスト、期間）が合わない、など、さまざまな問題が発生します。
困ったことに、この品質問題は、後工程のフォローでもみ消されることが多く、品質向上のために研鑽をするというモチベーションになかなかつながりません。

アジャイル開発においても、基本設計という工程はないですが、要件をシステム仕様に落とすことは重要な作業です。

この講座では、最初に品質意識確認テストを行うことで、自身の立ち位置を確認することができます。そこから品質ギャップの解消に向けて必要なことを自ら探すことによって、意識改革やスキル獲得につなげます。

概要	詳細
品質意識確認テスト	最初に、自己の品質意識を計るテストを受け、品質意識のレベルを確認します。
設計品質ワークショップ	テーマに従って、あるべき品質の姿と、現在の活動のギャップを明確にし、ディスカッションを通して解決の方向性を探ります。 ✓ 基本設計のゴール ✓ 機能の洗い出し ✓ データ設計 ✓ 画面設計 ✓ トレーサビリティ ✓ 標準化
振り返り	一日のワークショップを振り返り、自らの設計品質向上への方向性を確認します

新講座 2022年2月より提供

『設計品質ワークショップ【詳細設計編】』

前提知識：

詳細設計（内部設計・モジュール設計）の経験

対象者：

・詳細設計の品質向上のポイントを探したい方

※この講座では講師が何かを教えるわけではありません。受講者が自らワークショップの中でディスカッションを重ね、自分に合ったヒントを見つけ出します。

概要：

このコースは、詳細設計のあるべき姿を見つめなおし、設計品質向上につながるヒントを、自らディスカッションを通して探し出すことを目的とするワークショップです。

詳細設計は、システムの仕様を実装に落とす方法を考える作業です。この作業の中では、さまざまな非機能（性能、セキュリティ、保守性）を考慮する必要があります。

しかし、実際の開発現場では、工数削減の号令の下、詳細設計における考慮をおろそかにしたり、あるいは一部のアーキテクトだけに押し付けて、その結果、詳細設計品質が確保されないまま開発が進んでいるという例が散見されます。

困ったことに、非機能の品質問題はなかなか目に見えず、リリース後に問題が起きて、あるいは次の改修時に莫大な影響範囲が見つかって、初めて気が付くということも多くあります。

この講座では、最初に品質意識確認テストを行うことで、自身の立ち位置を確認することができます。そこから品質ギャップの解消に向けて必要なことを自ら探すことによって、意識改革やスキル獲得につなげます。

概要	詳細
品質意識確認テスト	最初に、自己の品質意識を計るテストを受け、品質意識のレベルを確認します。
設計品質ワークショップ	テーマに従って、あるべき品質の姿と、現在の活動のギャップを明確にし、ディスカッションを通して解決の方向性を探ります。 ✓ 詳細設計で実現すべきこと ✓ インターフェース ✓ 状態遷移 ✓ データベース ✓ セキュリティ ✓ 関数・メソッド
振り返り	一日のワークショップを振り返り、自らの設計品質向上への方向性を確認します

新講座 2022年3月より提供

『AIテスト入門 ～機械学習を実感するハンズオン付き～』

対象者：

- AIシステムの品質やテストについて関心がある方
- これからAIシステムの企画・開発・テストに関わろうとする方
- AIについての基本知識を充実させたい方

【レベル感】・中級 ・上級

前提知識：

- 説明の中に一部、数学、統計学の内容が含まれます。
- ソースコードを理解するにはPython言語の知識が必要です。

概要：

本講座では、AIベースのシステムについて、さまざまな観点で品質の留意点を学びます。また、ハンズオンで機械学習の様子を確認し、理解を深めます。

近年、AI技術が発達し、さまざまな領域でAIの利用が試みられています。多くのシステムでAIが検討されるようになるのも、そう遠い将来ではありません。

AIに求められる品質の議論は少し立ち遅れていましたが、整理が進み、2021年10月にはISTQB(*)が「AIテスター認定試験」を開始しました。講義では、このAIテスター認定試験のシラバスをカバーして、AIの品質を説明します。

従来のシステムにはない、AIならではの考慮事項を認識することで、これからのシステム企画・開発でご活用出来る講座となっています。(*)International Software Testing Qualifications Board

■受講後の効果

- AIシステムに求められる品質を理解する
- AIシステムのテストに関する留意点を理解する
- AIがどのように学習するかを確認し、学習品質向上の手法を確認する。

■本講座はハンズオンを含むため、教室でのリアル講座として提供します。

ハンズオンを省略してオンラインでの実施を希望される場合は、個別にご相談ください。

	アジェンダ
1.	AIについて
2.	品質特性
3.	機械学習概説
4.	機械学習のデータ
5.	機能評価メトリックス
6.	AIシステムのテスト
7.	AI品質特性のテスト
8.	AIテストの技術
9.	AIシステムのテスト環境
10.	AIを使ったテスト

お困りごと別のヒンシツ大学活用事例

お困りごと	お客様事例	ヒンシツ大学の売り（他社との差別化）
①定期（新人、中堅）社員教育のコンテンツ作成 含め教育を丸投げしたい	通信会社 通信子会社 金融会社 金融会社	<ul style="list-style-type: none"> ・SHIFTをデリバーで活用しており、SHIFTの品質の考え方、共通言語を習得する。 ・SHIFT事例を紹介するので、すぐに現場で役に立つ。 ・グループワーク主体であり、参加者全員の考え方も学ぶことができる。
②炎上案件が多く、 コスト削減、 品質改善したい	通信メーカー 精密IT子会社 商社IT子会社	<ul style="list-style-type: none"> ・品質にかかわる6つのカテゴリ（テスト設計、インスペクション、品質、不具合分析、テスト計画、非機能テスト）を検定、可視化する。 ・各社員の実力に合わせた講座を選択し受講する。（チケット制）
③リリース後の障害多発 による対策の一環	SI 物流IT子会社	<ul style="list-style-type: none"> ・プロダクト、プロジェクト品質の可視化を行う。 ・テスト設計検定、テスト実行検定を行い、社員能力の可視化を行う。 ・具体的な品質をあげるテスト設計手法（機能テスト、シナリオテスト）を習得する
④革新的な取り組みの 一つとして。 新任品質責任者 （部長、QA担当）着任 時の実績作り	警備IT子会社 不動産事業会社 電気事業会社	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト設計手法を受講者全員が身に付ける ・ヒンシツに対する考え方、テスト手法を組織全員で共有しディスカッションできる ・講座で学んで事をすぐ現場でつかえる。
⑤年度末余剰予算利用 （予算過達）	通信会社 信販事業会社 物流事業会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア品質に課題を感じており、品質を売りにしてヒンシツ大学を受講した。 ・Wモデルの左の研修も拡充 ・CAT検定（PM検定を実施し、潜在PLを抜擢） ・要求開発手法をSHIFTグループメソドロジック社員特別講師（事業部門へ要求定義の具体的な手法を取得する。

ヒンシツ大学講座が、PMI-ATPに認定されました！

ヒンシツ大学の講座が**PMI-ATP**に認定されたことにより、対象講座を受講いただくことで**PDU**が取得できるようになりました。



<対象講座>

ソフトウェアテストのプロジェクト・マネジメント（2日コース）

<取得可能PDU>

12PDU（Technical:6、Leadership:3、Strategic:3）

* PMI-ATP：世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIの公認トレーニングパートナー

* PDU：PMIが認定する国際資格「PMP（Project Management Professional）」の取得／維持に必要な学習単位です。1PDUは1時間に相当します。PMP受検および、PMPを3年毎に更新する際にも、研修関連で35PDUが必要となります。

本講座の受講後、**PDU取得証（受講修了証）**を発行いたします。

本受講修了証は、PDU申請内容のエビデンスとなり、

PMI（Project Management Institute）にPDUを申請する際にご利用可能です。

6. 講座紹介

1. 公開講座
2. 1社向け企業研修
3. オンライン
4. 専門学校へ授業提供
5. ヒン大ニュース
6. 講座紹介

ソフトウェアテスト、基本の「き」 ～ゼロから学ぶ品質センス～

ベーシック

概要：

用意された仮想業務アプリケーションに対してテストを実施して頂き、
バグを見つけて頂きます。

独自手法では非効率であり漏れがあることに気付き、
網羅的に品質を確保するためには
いくつかのコツをマスターする必要がある事を理解しながら、
グループ演習では、自身が見つけられなかった理由などを
話し合いながら講師からの指摘を通して、
テストの奥深さを知っていただきます。自身の課題が明確になった後、
品質/テストについての基礎知識を学びます。

タイトル		概要
1-1	ソフトウェアテスト実行体験	(演習) テスト実行体験
1-2	品質について	(演習) ソフトウェア開発プロジェクトとは (演習) ソフトウェアテストの役割 (演習) 品質基準とは (演習) 品質とは
1-3	ソフトウェアテスト実行体験 (テストケースを用いた場合)	(演習) テスト実行体験 (演習) 良いテストケースとは (演習) テスト観点とは (演習) テスト手法 (同値分割 & 境界値)

『ソフトウェアテスト入門 ～「テストに関する知識」「品質に関する知識」を習得～』

ベーシック

概要：
**ソフトウェア開発経験2-3年の
若手エンジニアにおススメの講座です。**

ソフトウェア品質に対する基本的な考え方と
テスト設計、品質分析の基礎理解を深めます。
後半では、テスト現場で起きている課題を、
ケーススタディを用いて個人演習と
グループディスカッションを行い、
具体的で実践的な課題解決方法を学べます。
今後テストチームをリードする立場に立たれる方、
テスト設計や品質分析に興味があり
これから取り組もうと考えておられる方に、
手取り足取り「テストのキホン」を
講師がお教えします。

講義内容
品質を考える
ソフトウェアテストの役割 (演習) 品質とは？ 品質に対する期待 品質モデル 品質を考える
テストプロセス
(演習) テストプロセス 開発工程とテストプロセス テストレベルとテストタイプ
テスト技法
テスト技法の種類 レビュー技法 ブラックボックステスト技法 (演習) 同地分割、境界値分析 (演習) デシジョンテーブル
テスト管理
(演習) テストの立て直し
品質分析
品質分析の目的と手順 ソフトウェア品質のメトリクス (演習) 品質分析 何をいつ分析するのか

概要：

ほとんどの方が必要性を感じているにも関わらず、
ついつい後回しにしてしまいがちな

「テスト自動化」。

本講座は、

その初めの一步を踏み出すための自動化ツールの
使い方入門コースです。

前提知識を必要とせず非エンジニアでも参加できる
講座ですが、

後半では運用時の落とし穴などやや応用的な内容
にも踏み込みます。

テスト自動化に興味があるが、経験のない方、
チームのテストを効率化したいと思っている方、
単なるコーディング/テスト実行だけではない、
+αのスキルを身につけたい方におすすめです。

講義内容	
自動テスト基礎	
	自動テストのメリット Seleniumとは？
Selenium IDE入門	
	IDEを用いた自動記録と再生 基本的な操作とテスト項目の埋め込み 画面要素の指定方法
テスト自動化のアンチパターン	
	IDEを用いた自動記録と再生 基本的な操作とテスト項目の埋め込み 画面要素の指定方法
テスト自動化の「やってはいけないこと」	
演習	
	テストシナリオに沿った地黄テスト作成演習

『非機能テスト入門（性能・負荷、ユーザビリティ） ～注目度急上昇のテスト領域～』

ベーシック

概要：

品質保証の「方法論」の一つである「非機能テスト」を学びます。

非機能テストの重要性と全体像、
及びその合格基準の決め方など、
演習を通じて基礎知識を習得します。

特に、「負荷テスト」「ユーザビリティテスト」
について詳しく取り上げ、
実際にテストを考える場合のアプローチをご紹介します。

非機能テスト全般に渡って基礎から勘所まで取り
上げますので、経験の浅いエンジニアの方にも理
解しやすく、また、管理者の方にもレビューなど
の業務でご活用いただけます。

講義内容

非機能テストの種類と実施方法

非機能テストとは？
非機能テストと品質特性
非機能テストの種類
非機能テストの種類実施方法
(演習) 非機能テストの実施方法

非機能テストの合格基準の設定

機能テストの問題点
非機能テストの合格基準
非機能テストの合格基準の設定方法
(演習) 非機能テストの合格基準の設定

非機能テストの実技（負荷テスト）

負荷テストとは
負荷テストを行う理由
負荷テストツール

非機能テストの実技（ユーザビリティテスト）

ユーザビリティとは
ユーザビリティテストの必要性
ユーザビリティテストの種類
ユーザビリティテスト実施の流れ

『テスト設計(機能テスト) ～効率的に漏れの無いテスト設計手法を習得～』

エンジニア
リング

概要：

ヒンシツ大学の人気No.1の鉄板講座です。

ソフトウェアテスト専門会社SHIFTの
ノウハウである「テスト設計」を
余すところなく伝授致します。

特に、機能テストに関する設計技法の実
践での活用方法を学ばれたい方に
絶対オススメです。

独自の網羅的かつ効率的なテスト設計手
法を、ツールの活用方法なども含めて
しっかりマスターできる実践講座です。
豊富なケーススタディとディスカッシ
ョンを通して、実務ですぐに活用できるス
キルが身に付きます。

講義内容	
テスト設計基礎	
	テスト設計とは？ テスト設計フロー テスト設計書フォーマット テスト設計基礎実機演習
確認項目作成実践	
	確認項目一覧とは？ 確認項目一覧作成フロー テスト観点 パターン有無の判断
	確認項目作成実機演習
パターン表作成実践	
	パターン表とは？ パターン表作成フロー テスト技法（同値分割・境界値分割） 組み合わせ技法（全網羅・2因子間網羅） パターン表作成実機演習
テスト設計書チェック実践	
	テスト設計書チェックフロー テスト設計書チェック実機演習

『テスト設計（シナリオテスト） ～業務フロー等を基に網羅的なテスト設計を習得～』

エンジニア
リング

概要：

シナリオテストをどう設計するか？ 待望の「シナリオテストの設計ノウハウ」を公開します。

要求定義で活用するユースケース図等のモデリング手法を用いながら、シナリオテストケースに落とし込むまでの具体的な方法論を、演習を交えて身に着けることができます。

設計する担当者によって作り方や内容にバラツキがおこり、それを改善したいとお考えの方、網羅的なシナリオテストの設計方法を身に着けたい方などにおすすめです。

「テスト設計 実践編」の上位クラスの講座になりますので、事前に「テスト設計 実践編」を受講した方のみを対象としております。

講義内容

シナリオテスト設計基礎

シナリオテストの定義
シナリオテストフォーマット
シナリオテストのプロセス概要

シナリオテストで活用する技術

UML、ユースケース、業務フロー

アクターの洗出し

アクターとは？
アクターの洗出し技法
アクター洗出し演習

目的と工程の洗出し

目的とは？工程とは？
ユースケース、UML、業務フローの活用
目的と工程の洗出し演習

因子・水準の洗出し

因子・水準とは？
因子・水準の洗出し技法
因子・水準の洗出し演習

確認項目と期待値の設定

確認項目と期待値とは？
確認項目と期待値の設定ポイント
確認項目と期待値の設定演習

ウェブシステムを用いたシナリオテスト設計演習

『テスト演習（機能テスト） ～仮想プロジェクトで腕試し - スキルレポート付～』

概要：

本講座では、ソフトウェアテストの専門会社SHIFT社ならではの現場ノウハウがたっぷり詰まったテスト設計のスキルを余すところなく伝授致します。

ご自身がお持ちのテスト技法などの知識を最大限に活用して、一連のテスト作業を実践形式で実施して頂き、テスト設計に関するより高いスキルを習得して頂きます。

本講座は、演習の最後にご自身のテストスキルレベルが分かる仕組みとなっています。

この「スキルの可視化」により、今後ご自身が強化すべきスキルの指針が具体的に明らかとなります。

テスト実践スキル（計画・設計・実行）	スキル測定観点	
計画	テストレベルを意識した計画	単体テストや、結合テストといった視点を意識して計画書を作成できる力を確認します。
	予算を意識した計画	テストにおいても予算を考慮することが大切な視点です。そのために必要な検討ができる力を確認します。
	効率的にバグを検出	バグの発生には癖があります。それを意識した検出ができるような計画を立てる力を確認します。
設計	過不足がない設計	テストで計画したものの過不足なくテスト設計書に落とし込める力を確認します。
	因子・水準・組み合わせ	テスト対象に対してテスト技法を適切に適用できる力を確認します。
	テスト設計書の読みやすさ	読みやすいテスト設計書を記載する力を確認します。
	開発仕様書の抜け・漏れ検出	開発仕様書の抜け・漏れを検出できる力を確認します。
実行	正確性	テストケースを読み取り正確にOK/NGを実行できる力を確認します。
	生産性	テストケースを適切な時間で実行する力を確認します。
	不具合起票力	適切な不具合起票ができる力を確認します。
	実行力（適性）	テストケース外の不具合を見つける力を確認します。

講義内容

1. テスト基礎

- ・品質とテスト
- ・テストライフサイクル
- ・テスト設計概要
- ・演習の進め方

2. テスト計画

- ・テスト要求（仕様書あり）を基にテスト計画を立案する
- ・テスト計画作成

3. テスト設計

- ・計画済みの方針に基づいてのテスト設計

4. テスト実行

- ・テストケースの実行（不具合起票を含む）

5. 採点と講師解説

- ・演習結果採点（自己採点）、講師解説、今後のスキルアッププラン検討

『仕様書インスペクション ～上流品質を高め手戻りを防ぐドキュメントレビュー技法～』

エンジニア
リング

概要：

**SHIFTの仕様書インスペクションサービスは、
下流工程のテストで得たバグの発生原因を活
かした独自手法で、設計仕様書の抜け漏れを
未然防ぐことができます。**

この仕様書インスペクション講座では、
まずインスペクションの目的と
その効果を理解した上で、
その計画の立て方を学びます。
その上で、SHIFT独自手法であるテストビリ
ティの観点をインスペクション技法を適用
した方法論を、演習の実技を通して学びます。
最後に手法の活用方法についての
ディスカッションを行い、
現場で実践できるスキルとして
身に付けることができます。

講義内容

インスペクション基礎

インスペクションの定義
レビュー技法におけるインスペクションの位置づけ
インスペクションの期待効果
インスペクションに関するよくある誤解

インスペクションの計画

インスペクションのフロー
インスペクション計画記載内容
計画書作成時の重要ポイント

インスペクション手法

インスペクション手法の分類
インスペクション観点
(演習問題) インスペクションの実施①
試験性の観点でのインスペクションとは
(演習問題) インスペクションの実施②

インスペクションの改善・適用

ケーススタディ（原因分析・対策案検討）
導入時の問題と解決法
(演習問題) インスペクションの改善
インスペクションを成功させるための重要ポイント

概要：

ほとんどの方が必要性を感じているにも関わらず、ついつい後回しにしてしまいがちな「テスト自動化」。

本講座は、Selenideを解説します。
メンテナンス時に必要となる基本的な機能を学んだ後に、
実践課題に取り組んで頂きます。
また、PageObjectを使った効率化を説明します。
テスト自動化に興味があるが、経験のない方、
チームのテストを効率化したいと思っている方、
単なるコーディング/テスト実行だけではない、
+αのスキルを身につけたい方におすすめです。

講義内容

テスト自動化とは

テスト自動化のこれまでとこれからについて説明します。テスト自動化の留意事項にも触れます。

Selenideハンズオン

講師と一緒にSelenideを利用して、自動テストを作成することで、基本的なSelenideの利用方法を学びます。また、PageObjectを使った効率化を説明します。

Selenide演習

各自のペースで演習を行うことによって、自動テストを作成する技術を身につけます。

『DevOpsテスト入門 ～継続的デリバリーを実現するテストのアプローチ～』

概要：

日本初(*1)の DevOpsにおけるテストにフォーカスを当てた講座です。 DevOpsにおいて品質確保のキーとなるテストについて基礎から学ぶことにより、品質向上へ繋げるためのポイントを身に着けることができます。日本では未翻訳の海外最先端の知見が盛り込まれた書籍の情報を取り入れており、グローバルスタンダードなテストのやり方を学ぶことができます。また、書籍出版経験もある、業界の第一線で活躍している講師が講座テキストを監修いたしました。

DevOpsについての基本的な考え方を学び、DevOpsにおけるテストの進め方、手動テスト・自動テストの使い分け、代表的な自動化ツールの適切な選択、及びその効果的な適用法を身に着ける講座です。

本講座では、実際のプロジェクト現場からの声を集め、DevOpsにおいて非常に有効なリスクベースドテストのやり方、そこにおけるテスト技法の選択の勘所を学習し、実際に体感し、どのように活用していくかを習得します。

講義内容	
DevOps基礎	DevOpsとは
	DevOpsとAgile
	品質とテスト
	テストプロセス
	テスト計画
	テストレベル・テストタイプ
	(演習) 良い品質のポイント (演習) リスク抽出
DevOpsにおけるリスクベースドテスト	リスクベースドテストの重要性
	リスクとは
	リスクに応じたテスト技法の使い分け
	テスト技法
	演習①リスク抽出
	演習②リスクポーカー->リスクチャー
DevOpsにおけるテスト自動化入門	演習③テスト技法の選択
	・自動化の目的
	・TDD/ATDD/BDDの活用
	・(演習) Gherkin

概要：

ソフトウェアテスト専門会社SHIFTの確かな実績に裏打ちされた「テスト計画ノウハウ」を伝授します。

一般的なプロジェクト計画立案ではなく、テスト計画時に必要となる様々な手法を体系的に学び、実践できる能力を豊富な実践を交え、身につけていただきます。

テスト見積りでは、様々な開発手法（アジャイル開発やウォーターフォール開発）に応じた事例を紹介をしながら、実際の現場で役立てるために重要な点を学習します。

講義内容	
テスト計画の基礎	
テスト計画とは	案件特性に応じたテスト方針の立て方 / QCDの相関関係 (演習) テスト方針立案
テスト計画実践(ウォーターフォール / アジャイル開発向け)	
ウォーターフォールモデルの特徴	テスト工程の分類 / テストタイプ / 品質特性
工程別テスト計画の重要ポイント	(演習) 工程別テスト計画
アジャイル開発の特徴 / アジャイル開発におけるテスト計画の重要ポイント	
テスト見積りの基礎	
見積りとは	ソフトウェア開発における見積り手法 / テスト見積り手法 (演習) テスト見積り
テスト見積り実践(ウォーターフォール / アジャイル開発向け)	
ウォーターフォールにおける見積りの特徴 / 見積り対象 / 工程別考慮ポイント	
テスト見積りケーススタディー / 影響する前提条件	(演習) テスト見積り
アジャイル開発における見積りの特徴	
テスト見積りの精度向上・改善	
テスト見積りケーススタディー / テスト見積り制度向上Tips	

概要：

**テスト計画後の実行管理に焦点を当てて、
実施準備の手法、チーム体制作りから進捗管理方法
などの管理スキルを習得することができます。**

演習では、
テスト実行フェーズに求められるテスト管理を豊富
なケーススタディーを基にした個人演習と
グループディスカッションを通じて身につけること
ができます。

講義内容
テストの目的と本講座の範囲
ソフトウェアテストの目的 本講座の目的 本講座の範囲
テスト管理全般・・・3つの肝
QCDを管理し、完了報告ができる 数値報告をエスカレーションできる 変更管理ができ、計画見直しができる
テスト実行準備・実施
テスト実行前に準備すること テスト体制構築 テスト実施スケジュール作成のポイント テスト実施可能判定
テスト実行管理
テスト実行管理とは 進捗管理
テスト実行ケーススタディ
テスト実行管理（トラブル対応） モチベーション管理 フェーズ終了判定・品質チェック
その他の考慮点
テスト事項化による効率化 スマホ・テストに関する考慮点 アドホックテストに関する考慮点

概要：

組織やプロジェクトでどうしたら不具合情報を蓄積活用できるのか悩まれている方におススメです。

ソフトウェアテスト専門会社SHIFTでは、18万件以上の不具合を検出してテストに活用しています。

この「不具合分析ノウハウ」を余すところなく公開します。特に、不具合分析の観点と分析に必要な関連情報についてその基礎を学びたい方全員におススメです。

テストやシステム運用時に発生した障害報告を元に、その内容分析の観点と不具合分析に必要な関連情報について学習します。

ケーススタディでは、不具合の分析方法について実際のデータを使って受講者と議論しながら理解を深めていきます。実務に戻ってすぐに実践活用できる内容が満載です。

講義内容

不具合分析の基礎

- 不具合分析とは？
- 不具合分析フロー
- 不具合分析に必要な項目
- 不具合分析基礎演習

不具合分析のための実行時の工夫

- 不具合分析に必要なメトリクス
- 不具合分析実施時に必要な考慮ポイント
- 不具合分析演習

不具合の原因分析と対策

- 不具合の原因分析と対策立案方法
- 不具合分析ケーススタディー
- 不具合原因分析・対策立案演習

不具合分析の改善・適用

- 不具合の資産化
- 不具合分析のアンチパターン
- 不具合分析の改善(演習)

『テストプロセス改善 ～評価・改善案策定を一日で伝授 – TPI NEXT習得～』

マネジメント

概要：
講座は、
ソフトウェアテストの品質を向上させる鍵となる、
テストプロセス改善を推進するために必要となる
知識習得を目的とする講座です。
特に本講座では、
最近注目されているプロセス改善を推進モデルの
TPI NEXT を取り上げ、演習なども交えて実際に現場で使
える具体的な技法として習得できます。

さらに、ご受講された方への特典として、
別途ご案内するオランダSogeti社が提供する
認定試験（別費用）に合格されると、
TPI NEXTファンデーション資格を取得することができます。

藪田 和夫 南山大学理工学部ソフトウェア工学科 客員教授

1976年富士通入社。
以来SEの共通技術部門において企業システムのシステム生産技術に一貫して従事。作業標
準、技法、ツール研究、製品開発から適用推進に至るまで幅広く活動。
またISOやJISなどの標準化も積極的に参画。現在は、ISO/IEC JTC1/SC7 WG4（ツール
と環境）、同WG26（ソフトウェアテスト）の国内委員会の主査および委員を務め、複数
規格の国際エディタも務める。2015年7月より現職。



TPI NEXT
藪田和夫他訳。
トリフォリオ,2015

講義内容

テスト技術と標準化の動向、TPI NEXTの位置づけと概説

キーエリア・チェックポイントの理解と評価の実践（含、休憩）
• 利害関係者との関係（解説、自己評価、GP討議、発表）
• テスト管理（理解と自己評価、GP討議）
• テスト業務の専門性（理解と自己評価、GP討議、発表）

実施計画の立案と実施、改善計画の立案
• 評価、改善計画、およびカスタマイズ（SWOT）の解説
• 改善計画の導出（自己分析、GP討議、発表）

まとめと質疑、確認テスト、アンケート記入

『テスト戦略 ～テスト計画に繋がる具体的な戦略立案の肝～』

マネジメント

概要：
戦略的にテストに取り組みたい方は必見です。
テスト戦略に必要な
戦略フレームワークをご紹介します。
あわせて、フレームワークを活用した事例紹介、
演習を通じて理解を深めて頂きます。
少数開催を予定していますので、
濃密な議論が期待できます！

講義内容	
テスト戦略入門	
	戦略と戦略プロセス テストプロセスと要求分析 効果的なテスト テスト戦略と計画 代表的なテストアプローチ
7つのテスト戦略	
	ソフトウェアレビュー（成功のポイント） リスクベースドテスト、テストの自動化、レビュー
アジャイルとWebテスト	
	アジャイルソフトウェア開発の12の原則 アジャイルテストの4象限 Webアプリケーションのテスト戦略 コンテンツテスト、機能テストの自動化、パフォーマンステスト
テスト戦略立案	
	ケース1：テストのためのインプット情報の質が低い ケース2：新規・小規模・短納期・多端末 ケース3：コスト削減が重要 テスト対象の完成度に応じたテスト戦略

概要：

一番身近にあって簡単に動かすことのできるVBAを使ってプログラミングの動きをイメージさせながら学ぶことができます。

VBAの基礎、VBAの演習

Excelからもっと他の自動化に

チャレンジしたい方

プログラムを覚えたい方、

Excelをもっと便利に使いたい方

講義内容

1. 本ではな載っていない注意点から始めます。

- Excelの確認してマクロ記録をさわってみよう
抜けがちな基礎知

2. VBAの基礎(文法、構成、仕組み、取得と確認)

- Excelデータを操作してみよう
IF文 ループ文、基礎の応用、便利コーディング編
• (簡単な演習)

3. ユーザーフォーム

- (演習) オリジナルのツールを作ってみよう
イベントプロシージャ

4. 応用少し複雑な処理を理解しよう

- 複数系Object
- For Each 等
- 関数の作り方
- エラー処理等
- 別なブックの操作

概要：

一番身近にあって簡単に動かすことのできるVBAを使ってプログラミングの動きをイメージさせながら学ぶことができます。

Excel経験された方ならどなたでも受講できます！！

講義内容

1. 本ではな載っていない注意点から始めます。
 - (演習) VBAで参照できるライブラリについて基礎を理解しよう
2. 他のアプリケーションの起動を試してみよう
 - (演習) 別のExcel, Applicationの起動から操作してみよう
3. Outlookの操作をしてみよう
 - (演習) Outlookのメール等を自動化を体験してみよう。
4. AccessとExcelの連携を経験してみよう
 - (演習) VBAとSQL文等の連携等について体験してみよう。
5. WordとVBAの連携について
 - (演習) wordのデータをExcelにしてみよう。
 - (演習) Excelのデータをwordに入れてみよう。

概要：

一番身近にあって簡単に動かすことのできるVBAを使ってプログラミングの動きをイメージさせながら学ぶことができます。Excel経験された方ならどなたでも受講できます！！

講義内容

1. 本ではな載っていない注意点から始めます。
 - ・（演習）VBAで参照できるライブラリについて基礎を理解しよう
2. HTMLを理解(作ってみよう)してみよう
 - ・（演習）HTMLタグを書いてみよう
※INPUTタグ、改行タグ、imageタグ、tableタグ、selectタグ、ボタン等、前提となる知識を意識させます。
3. HTMLタグの操作するライブラリを使って操作してみよう
 - ・（演習）HTMLタグを操作してみよう
※INPUTタグ、改行タグ、imageタグ、tableタグ、selectタグ、ボタン等をそれぞれを操作する基礎を教えます。
4. RPAツールを使わずRPAプログラミングを勉強してみよう。
 - ・（演習）手順書を使ってシーケンス図におとしてみよう
※RPAをする時の設計の知識得られます。
5. 実際のwebサイトを操作してみよう。
 - ・（演習）手順書を使ってシーケンス図に
 - ・（演習）実際のサイトを使ってRPAVBAプログラミングを学びます。

概要：

本講座では、性能テストの考え方に加えて、性能問題の事例を学びます。
また、負荷テストツールApache JMeterを利用した演習を行います。
性能テストに取り組むエンジニアにとって、有用な内容となっています。

これから性能テストに取り組む方だけでなく、
より高度な性能テストを行いたい方にもおススメです。

◎性能テストの考え方や事例を学習したいエンジニア

講義内容	
1.性能とは	
	・性能に関する一般的な知識を確認します。
2.性能問題の種類	
	・性能テストの分類と、目的を整理します。
3.負荷テスト入門	
	・実際にApache JMeterを使って負荷テストを実行する手順を確認します。

概要：

**本講座では、TDDの体験とともに、よりよいテストの書き方、
よりよいリファクタリングの進め方をお伝えします。**

プログラム設計力を向上を目指す開発者にとって、有用な内容となっています。

目の前のプログラム開発だけでなく、
将来まで長く使えるプログラム設計力を身につけたい方におススメです。

◎プログラム設計力の向上を目指す開発者

講義内容

1.自動テスト概論

- ・自動テストの状況
- ・ユニットテスト

2.テストコードのマナー

- ・テストコードで守るべきマナー

3.TDDのポイント

- ・TDDの基本的な進め方
- ・TDDの応用

4.リファクタリングの実践

- ・リファクタリングのポイント
- ・リファクタリングの実施例

5.TDD演習

- ・TDDの進め方確認

作るUX・測るUX実践講座 ～エンジニアのための利用者視点～

エンジニア
リング

概要：

本講座では測るUXに加え、作るUXの基本をワークショップで学べるセミナーです。
さらに実践編ではワークショップを充実し、現場で使えるノウハウを修得していただきます。

これまで多くのテストを実施しているSHIFTのノウハウで、
ソフトウェアの利用者視点を活かしたテスト・評価できるきっかけを提供いたします。
ソフトウェアエンジニアとしてこれからステップアップをしたいと思う方に、
UXのプロから利用者視点活用の実践的な基礎を伝授します。

どなたでも受講できます！！
IT業界の従事者及び従事予定者、
事業会社でのIT及び
サービス関連部門従事者及び従事予定者、
UXに興味を持っているエンジニア

講義内容

- 1.UXとは？
- 2.作るUX・測るUX
- 3.利用者視点を作る
- 4.UX品質
(座学、ワークショップ、質疑応答)

セキュリティテスト入門

～身近なリスクから理解しよう～

概要：
情報セキュリティの確保は、今やあらゆるシステムにとって必須のものとなっています。
そのためには、セキュリティの分析や要件検討、
そして組織だったセキュリティの運用についての知識が欠かせません。

本講座では、セキュリティの基本の考え方を広くお伝えします。
ITシステムの構築運用に関わる方だけでなく、
ITシステムを使う立場の方にも、有用な内容となっています。

セキュリティ関連でよく言われる規則を守るだけでなく、
その本質を理解した行動を身につけたい方におススメです。

どなたでも受講できます！！

基本情報処理技術者試験レベルの知識があり、
ITに関わる人（利用、運用、構築）全般にお勧めです

講義内容

1.情報セキュリティの動向

- ・セキュリティの動向・よくある攻撃手口や脆弱性

2.情報セキュリティマネジメント

- ・システム運用における情報セキュリティの技術と対策

3.セキュリティ評価基準

- ・情報セキュリティの要件とその保証

4.脅威分析

- ・情報セキュリティのリスク分析

5.セキュリティアタックテスト

- ・アタックテストの手法

概要：

事務処理業務の効率化・自動化の強力なソリューションとして注目を集めているRPA（Robotic Process Automation）の概要や機能についてご説明した上で、実際にRPAが動く様子をハンズオン研修を通して学習頂きます。

どなたでも受講できます！！

RPAによる業務自動化に興味があるが、経験のない方、RPAでの業務を効率化したいと思っている方には絶対オススメです！是非一度ご受講下さい！

- ◆RPAを初めて触れる方
（例：RPAビジネスの展開をご検討中の企業様）
- ◆プログラミング未経験の方
（例：企業内バックオフィス業務ご担当者等）

講義内容

- ・ RPAのとは？
- ・ RPA導入の流れ
- ・ RPAとRDAの違い
- ・ ハンズオン(BizRobo!)
- ・ ハンズオン(UiPath)

概要：

事務処理業務の効率化・自動化の強力なソリューションとして注目を集めているRPA（Robotic Process Automation）の概要や機能についてご説明した上で、実際にRPAが動く様子をハンズオン研修を通して学習頂きます。

どなたでも受講できます！！

RPAによる業務自動化に興味があるが、経験のない方、RPAでの業務を効率化したいと思っている方には絶対オススメです！是非一度ご受講下さい！

- ◆RPAを初めて触れる方
（例：RPAビジネスの展開をご検討中の企業様）
- ◆プログラミング未経験の方
（例：企業内バックオフィス業務ご担当者等）

講義内容

- ・ RPAのとは？
- ・ RPA導入の流れ
- ・ RPAとRDAの違い
- ・ ハンズオン(BizRobo!)
- ・ ハンズオン(UiPath)

概要：
コンサルタントが使っているロジカルシンキングを技術の現場に応用したものです。
日々の仕事をスムーズに進めるために、さらに、顧客に提案して案件を受注するために、
共通に使うことのできる基礎スキルを身に付けます。

前半でロジカルシンキングの基礎を学び、
後半でそれを技術現場で応用するための方法を
具体的に学びます。

どなたでも受講できます！！
提案書や報告書など論理的なドキュメントが
必要とされているが作り方がわからない方、
説明をなかなか理解してもらえなくて
困っている方には特にオススメです！
是非一度ご受講下さい！

講義内容

1. 新しいロジカルシンキング

- ・反転論証図によるタテの論理
- ・MECE分類モデルによるヨコの論理

2. ロジックツリーで課題解決

- ・ゴールツリーと因果ネットワーク
- ・課題解決のための3つの基本型

3. 論理的なドキュメントを作る

- ・コンテキストで説得力強化
- ・ピラミッドストラクチャ展開

4. モデルとビューで図を描く

- ・確実に伝わる図の作成手法

5. 実践提案テクニック

- ・提案の基本構成要素
- ・アブダクションによる提案強化

概要：
本講座では、それぞれのCX手法の進め方、
及び注意点を説明していくとともに各種演習を通して、
講座で一緒になった方々と議論をすることで、知識と理解を深めていただきます。

ソフトウェア開発経験1～3年の若手エンジニア、
IT業界に従事しUXに興味のある方におススメの講座です。

◎売上を増加させるCX手法に興味がある方

講義内容
1. CXの定義と必要性
・CXをどうすることが売上向上につながるのか など
2. CXを上げる方法
2.1. 既存接点のCX向上
・収集したNPSとVOCの活用方法 など
2.2. 新たな価値の提供によるCX向上
・新たな価値を提供するとは、どのようなことか
・新たな価値を提供にむけたアプローチ
・価値の種類と永続性
・機能的価値の検討方法
・新しい価値を検討している人はあなただけではない
・ビジネスモデルの検討
・ビジネスモデルの詳細化
・小さく始めるコツ など

概要：

1部ではアジャイル、スクラム開発の基礎を講義、事例、グループワークを織り交ぜながら習得します。

2部では疑似開発プロジェクトでスクラムを実践します。

これからアジャイル開発を始めようとしている人にとって、基礎知識だけではなく、スクラム開発を実際に体験することで、すぐに業務に活かすことができます。

どなたでも受講できます！！
アジャイル開発を身につけたい方には絶対オススメです！是非一度ご受講下さい！
また、アジャイル開発をやりはじめた方でやり方に不安の方にはお勧めします。

講義内容

■ <1部> ■

- アジャイルとは
 - ・アジャイルとは
 - ・アジャイルソフトウェア宣言
 - ・12の原則
 - ・指揮統制 VS 自己組織化
- スクラム入門
 - ・スクラムの定義
 - ・スクラムの役割
 - ・スクラムのイベント
 - ・スクラムの成果物
 - ・スクラムの流れ
 - ・品質を高める完成の定義
 - ・スクラムの3本柱
 - ・スクラムにおけるQAエンジニア

■ <2部> ■

- スクラム体験
- ワークショップ
 - ・スプリント0 バックログの作成 見積
 - ・スプリント1～3計画MTG、開発、ふりかえり
 - ・リリース 成果物の発表

概要：

ソフトウェアテスト業務のプロジェクト・マネジメントをPMBOKのフレーム（知識エリア/プロセス群）に沿って解説します。

さらに、各種の演習を揃えており、実践力に磨きをかけることができる講座となっています。

※6時間×2日のコースです。

達成目標：

テスト・プロジェクトを成功に導くために必要となる知識を習得し、主体性を持って、テスト・プロジェクトをリードできるようになっていただくこと。

★以下のようなご経験やお悩みをお持ちの皆さんにおススメです。★

- ・開発遅延でテスト期間が圧縮され、十分なテストができないまま本番リリース。結果、本番障害が多発！
- ・テストの段取りがいつも後手にまわってしまう。
- ・テストで学んだ教訓が次に活かさない。

講義内容

0. はじめに

- ・ソフトウェアテストのプロジェクト・マネジメントとは
- ・プロジェクト・マネジャーの役割
- ・PMBOKとテストプロセスとの関連付け

1. 立ち上げ

- ・テスト・マネジャーの任命とプロジェクトの開始宣言～開発関連ドキュメントの確認～ステークホルダーの特定 について解説

2. 計画

- テストのプロジェクト計画書「マスター・テスト計画書」の作成
 - ・背景と目的、体制と役割分担
 - ・スコープ（対象範囲）
 - 漏れのない洗出しと品質リスクに基づく優先順位付け 【演習】
 - ・スコープ（対象作業）
 - 各テストレベルに実施するテストタイプを定義
 - テストベース/自動化方針/成果物/WBSを定義 【演習】
 - ・各テストレベルの開始基準と終了基準
 - ・工数見積りとスケジューリング 【演習】
 - ・資源計画/コスト計画/品質計画
 - ・リスクの洗出し/分析/対応策プランニング 【演習】
 - ・各種の管理手法/プロジェクト運営ルールの策定

3. 実行/監視・コントロール

- ・キックオフ・ミーティング
- ・テストレベル別計画/方針の策定
- ・進捗管理（ベースラインのモニタリングと対応） 【演習4種】
- ・課題管理とスコープ変更管理 【演習】
- ・テストレベル別の終了報告（工程完了基準に対して等） 【演習】

4. 終結

- ・成果物の整理と各種の終了手続き
- ・全体テスト終了報告書の作成 【演習】

概要：

テスト工程について、より効率的な計画を立て、より正確に管理するための実技を身に着ける講座です。

Excelを使ってテストの工数を詳細に計算し、それに基づいてテスト計画を立て、日々の実績をビジュアル化して管理する方法を学びます。

本講座では、テスト計画・管理の実務的な方法を、お伝えします。

テスト工程の精度を向上したいと
考えている管理者にとって、
有用な内容となっています。

実績管理だけではなく、
一手先をいくマネジメントを身につけたい方
におすすめです。

講義内容

1. テストの見積り

- ・ 工数の見積り
- ・ 工数計画
- ・ 工数の詳細検討

2. テストの計画

- ・ 実行のスケジューリング
- ・ 信頼度成長曲線
- ・ 残存リスク

3. テストの管理

- ・ 計画と実績の管理
- ・ 実績の説明
- ・ 実績を鑑みた対策

概要：
プロジェクト遅延原因の大半を占める要件定義工程の品質向上策の講座です。

REBOKや現場独自の経験に基づき、
「ユーザー部門、情シス部門もしくは、
開発ベンダーが要件定義で実施すること」、
「要求分析～仕様化～評価の手法」を中心に、
後続工程でのポイントを学びます。

本講座では、要件定義工程のプロセスや
実施方法に加えて実践を行います。
これから本格的に要件定義を担当する方や、
部下に要件定義の進め方を教育する方にとって、
有用な内容となっています。

これから、
ビジネス要求定義を担当される方もしくは、
ユーザー部門のビジネス要求定義の在り方に
提言をしていきたい方が対象になります。

講義内容

1. 要件定義の背景
 - ・ ITプロジェクトの現状
 - ・ 要件定義の重要性
 - ・ 要件定義の難しさ
2. 要件定義のポイント
 - ・ 要件定義での失敗事例
 - ・ 要件定義“あるある”
 - ・ 要件定義の失敗原因
 - ・ 要件定義の成功に向けて
3. 要件定義のプロセス
 - ・ 要件定義の手順
 - ①計画策定
 - ②現状把握
 - ③問題分析
 - ④課題解決
 - ⑤要件整理
4. 要件定義の実践
 - ・ 要件の抽出
 - ・ 要件の分析／仕様化
 - ・ 要件の検証
5. 要件定義工程以降でのポイント
 - ・ 基本設計の進め方
 - ①設計開始に当たってのポイント
 - ② 要件トレーサビリティ

ご検討のほど
よろしくお願ひいたします。

その常識、変えてみせる。

SHIFT